

**ルールに則した事務執行で
厳正な財政運営を**



公明党 なおの 克(所属4名・反対)

昨年度は、東日本大震災を受け、議案第1号を組み替え、増額の大型補正を組む等、非常事態を迎えた予算であった。その中で臨時財政対策債を借りず、公債費率や目標値には届かないものの経常収支比率が改善されたことは一定評価できる。しかし、財政力指数は悪化。基金残高の減少や資金運用は依然、厳しい状況にある。また市税の収納率は高いものの、市税収入は22年度比から減少するなど、歳入も厳しい状況である。これまで一貫して財源確保、既存事業の見直し等を求めてきたが、まだまだ不十分であり、事業の統廃合や経費節減ができない組織の体質があるのは否めない。「本町四丁目臨時自転車駐車場公金横領事件」では、危機管理が求められる事務執行において前指定管理者の不適切な手続きを、市は認識していたが、またしても報告がなかった。そもそも昨年、情報公開が遅れ、説明責任が果たされず、市長から何度も反省の弁が述べられたが、あの反省は何も生かされていない。また「特定健診等データ管理システム」の利用は、個人情報保護審議会において、目的外使用の指摘を受けたにも関わらず、直ちに解約をせず、数年間無駄な繰出金の支出があった。本来の手続きに従えば、貴重な税金を使いこむ事態まで発展する事はなく、このような事態を行政自ら一度も議会や市民に報告をせず、今回初めて明らかになった。このことは、情報の隠蔽、行政に対する不信を招く重大な問題である。市民のために行う事務執行が、市民の不利益になることは残念である。さまざま指摘させて頂いたが、24年度以降は全部署が適正な事務執行をして頂くよう強く求めたい。

**隠蔽・重大事務ミス多発は
もうたくさんだ。**



政策市民会議国分寺 三葛 敦志(所属4名・反対)

【正確性もダメ、妥当性もダメ】決算の帳尻も合わず、支出の妥当性も問題だらけだった。
【明らかになった隠蔽体質】監査委員に指摘されるまで議会・市民に隠した複数の問題が明らかになった。情報を伝えない姿勢は許されない。
【5年計画の総括、不十分過ぎ】目標設定・進

行管理が甘く、市民参加の総括も無い。これらにどう活かされるのかも見えてこない。
【事務事業評価の出し渋り】事務事業評価シートは議会・市民にフルオープンにすべきだ。
【減らない事務執行ミス】誤字・脱字の多発に加え、根拠のない支出（選挙開票事務）・徴収ミス（駐輪場事務）・文書管理（公文書保存年限の違反）等、ミスがあまりに目に余った。
【財政：重大事態の認識が無い】庁舎建設基金15億円取り崩しや繰越金・一時借入金（30億円）でどうか体裁を保っただけ。目先の収支均衡型予算ではなく、将来的な健全化を。
【人権・DV対策：課長「空席」続く】人権・DV対策の重要性を認識しつつも、市長は課長職を部長兼務のままにしている。機構改革の美名の下、無くそうとする意図すら見える。
【高齢者生きがい事業：ちぐはぐが目立つ】事業評価・施策転換・利用者の声を聞く努力のいずれもがちぐはぐで不十分だと判明した。
【重大な違法建築への対応が不十分】東京都からの移管で機能するはずだった「違法建築への対応事務」が不十分。放置は決して許されない。
【消費生活コンサルタントへの謝礼問題】休日割増手当どころか外部研修への報償そのものが問題。今後の調査・報告は隠蔽なきように。

●3年連続の決算不認定だ。市長の責任は重い。

**「市民施策削減、北口再開発優先」
は改めよ**



日本共産党国分寺市議団 岡部 宏章(所属3名・反対)

今後の災害への備えを根本から見直す対応はなされていません。防災倉庫や備蓄品が不十分であり、財政面で重要な基金は一般会計合計で残額わずか27億9千万円と、底をついてしまっています。
臨時財政対策債は、これを借りざるを得ません。そもそもこの制度は本来の地方交付税に戻すべきであるとはいえ、これを借りなければ標準的な市民施策の提供さえ出来ません。返済に当たっては全額が国によって手当てされており、後世にツケを残すことになるとの市の主張に根拠はありません。
国分寺駅北口再開発は、こればかりが予算の聖域とされ、市民の税金から予定では198億円もの多額の支出を行おうとする無謀な計画です。更なる市の財政支出をしなければならなくなる危険があり、市民施策への更なる圧迫、削減につながるものであり、絶対に許すことはできません。根本から見直しをするべきです。
生きがい通所事業については、市は財政が厳

しいことと、これからは地域の人々による高齢者の支えや高齢者自身も自主的に活動することを言うばかりで、肝心の市の果たすべき役割は放棄する態度に終始しています。入浴事業では、利用者の方々の話し合いや説明すら行わずに廃止を決め、怒りの声が寄せられています。敬老会中止は、震災が発生したことは理由にはなりません。市が本来の役割をしっかりと果たすことで初めて地域の繋がりも強められます。
市民施策充実のための財源は、臨時財政対策債を借り、国分寺駅北口再開発計画を根本から見直すならば十分に生み出すことができます。

**市民参加による
全ての施策評価の実施を！**



国分寺・生活者ネットワーク 岩永 康代(所属3名・賛成)

平成23年度予算は、まさに3月の予算審査中に起こった東日本大震災を経て、組み替えが行われた。その後6月に提案された補正予算は次年度の予算編成に向けたプロセスでもあることから、平成24年度には収支均衡型の予算編成となり得るのかどうか、更にいつ起こるかわからない大規模自然災害への市民の不安に対応し、セーフティーネットとなり得る財政基盤を強化するためにも、事業の再精査を求めてきた。
そのことを踏まえて、行政のPDCAサイクルの一環として、多くの市民参加のもとに合意形成を図りながら、市民サービス事業の統廃合、スクラップ&ビルドを視野に入れた全ての施策評価の実施が必要であったことを指摘する。
一方で、放射能対策については測定機器を購入した意義は大きく、放射線の影響を受けやすい子どもたちの安全確保に向けて、継続した空間放射線量や給食食品等の測定を実施している。今後は行政だけでなく、市民と連携した取り組みを求める。被災地支援、放射能対応、計画停電や節電対策等、誰もが未経験で混乱した状況の中、市民の「生命・健康・福祉」に多大な影響を及ぼすこと無く市政運営と年間予算を執行し、更には、平成24年度には収支均衡型予算編成を達成できたことについては評価する。
右肩上がりの歳入が見込めない厳しい状況の中で、歳出は扶助費を始めとして膨らんでいくことが予測されている。今後は大規模災害、公共建築物や下水道の改修に対応するためにも、底をついた基金の積み増しを見込んだ更なる事業精査が不可欠である。危機感をもって取り組んでいただくことを要望し、賛成の討論とする。

賛否の分かれた議案に対する議員の表決状況

議案名	議員名	自民党新政クラブ			公明党			政策市民			共産党			ネット		無党派									
		楠井	田中	本橋	新海	井沢	須崎	高橋	さの	木島	皆川	木村	三葛	及川	幸野	岡部	中山	片畑	高瀬	岩永	おざわ	いとう	釜我	甲斐	
議案第95号 平成24年度国分寺市一般会計補正予算(第2号)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
議案第105号 平成23年度国分寺市一般会計歳入歳出決算の認定について		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×
議案第107号 平成23年度国分寺市国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計歳入歳出決算の認定について		○	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○	退	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第109号 平成23年度国分寺市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について		○	○	○	○	長	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第110号 平成23年度国分寺市介護保険(保険事業勘定)特別会計歳入歳出決算の認定について		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

・表決 (○=賛成 ×=反対 退=退席)
・会派名 (政策市民=政策市民会議国分寺、共産党=日本共産党国分寺市議団、ネット=国分寺・生活者ネットワーク)